

2017モータースポーツファン感謝デー 「半世紀を超える夢が実現」 星野一義、憧れのHonda RCで鈴鹿を駆ける。

2017年3月4日(土)・5日(日)に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で開催する「2017モータースポーツファン感謝デー」のイベント「Hondaロードレースの源流」で星野一義氏がHonda RC166をデモンストレーションします。これはHondaの協力によりマシンが準備され実現するイベントで、マシンとともに憧れの存在であった北野元氏のHonda RC164、高橋国光氏のHonda RC142と鈴鹿サーキットを駆け抜けます。

Hondaロードレースの源流

3月4日(土) 15:15~15:35、5日(日)10:50~11:10



■星野一義氏コメント:

「中学生の頃、北野さんや国さんがマン島や世界選手権で活躍する姿をオートバイ雑誌で毎日のように眺めていた。僕にとってHondaは憧れの存在だった。生まれて初めて買ったバイクもHondaのベンリィ。毎日のように河川敷で練習したよ。その後カワサキワークスに入ったのでHondaはライバルだったけど、いつか乗ってみたいと思ってた。子供の頃からの夢は半世紀以上、ずっと持ち続けていたね。

今回、僕の夢を叶えてくれたHondaや北野さん、国さん、そしてこのデモンストレーションに賛同してくれた日産の心意気に心から感謝します。本当にありがとう。

当日は家族も呼んで、僕がRC166で走る姿を見てもらおうと思ってる。だって、子供の頃からの夢が叶う瞬間だからね」



星野一義(Honda RC166)

■星野一義 1947年7月1日生まれ 静岡県出身
レースキャリアのスタートはオートバイ。1968年にはカワサキワークスのライダーとして、全日本モトクロスの90cc・125ccで両クラスのチャンピオンを獲得した。80~90年代に様々なカテゴリーで圧倒的な勝利を重ね、「日本一速い男」と勇名を馳せた。2002年に現役を引退した後も自らチームを率いてシーズンを戦う。

■RC166

1964年イタリアGPでデビューした世界初の250cc/6気筒マシン(RC165)の発展型で1966年のマン島(イギリスGP)より参戦を開始した。この年、マイク・ヘイルウッドのライディングにより、RC166の前モデル(3RC165)の8勝と合わせ11戦10勝と言う圧倒的な強さで250ccクラスを制覇し、グランプリ5クラス制覇の一翼を担った。



北野 元(Honda RC164)



■北野元 1941年1月1日生まれ 京都出身
元HondaのGPライダーで、デイトナ(アメリカ)での優勝歴がある。四輪転向後は同じく二輪出身の高橋国光とともに草創期の日産ワークスドライバーとして活躍、71年には全日本S IIチャンピオンを獲得した。78年に第一線を引退したが、87年に一時グループAツアリングカーに復帰、89年には星野一義とのペアで優勝も果たしている。

■RC164

1963年シリーズ終盤にRC163の発展型として投入されたトランジスタ点火を採用した250cc/4気筒マシン。この年、ライバルメーカーの台頭もあり、鈴鹿で行われた日本初のグランプリレース(シリーズ最終戦)はシリーズポイント同点と言う接戦の中で迎えたが、見事優勝を果たしHondaにとって同クラス3年連続となるタイトルをもたらした。



高橋国光(Honda RC142)



■高橋国光 1940年1月29日生まれ 東京都出身
1958年に二輪レースでデビュー。Hondaのワークスライダーとして60年から世界選手権に参戦、2年目となる翌61年の西ドイツGPで日本人として初めて世界選手権での勝利を飾った。65年からは四輪レースに転向し、北野元とともに日産ワークスドライバーとして活躍する。99年に現役を引退後、「チーム国光」代表、監督に就任。

■RC142

1959年、Hondaの夢であったマン島TTレース(イギリスGP)に初参戦する為に開発された125cc/2気筒マシン。決勝レースでは初参戦にもかかわらず6位入賞を含め7位/8位/11位の結果を残しメーカーチーム賞を獲得した。グランプリレース参戦58年を経て通算700勝以上を記録したHondaが世界挑戦の第一歩を踏み出した記念すべきマシン。